

次期総合振興計画の策定方針（案）

総合振興計画の位置づけ

地域の将来像を示し、その実現に向けた施策を定める自治体の最上位計画であり、市民と行政が共有するまちづくりの共通の指針となります。

平成23年の地方自治法改正により自治体における基本構想の策定義務が廃止されて以降、策定は市町村の判断に委ねられていますが、市民や行政が協働でまちづくりを進めるための指針として多くの市町村が引き続き策定しています。

本市では、総合振興計画基本構想の策定、変更又は廃止に関することについて、地方自治法第96条第2項の規定による議会の議決すべき事件として条例で定めています。

計画策定の趣旨

現行の第2次計画期間中に発生した新型コロナウイルスの世界的流行をはじめ、人口減少、人手不足の加速・深刻化、自然災害の頻発・激甚化や国際情勢等の影響による物価高騰などは、今なお地域の経済や市民生活に影響を与えています。

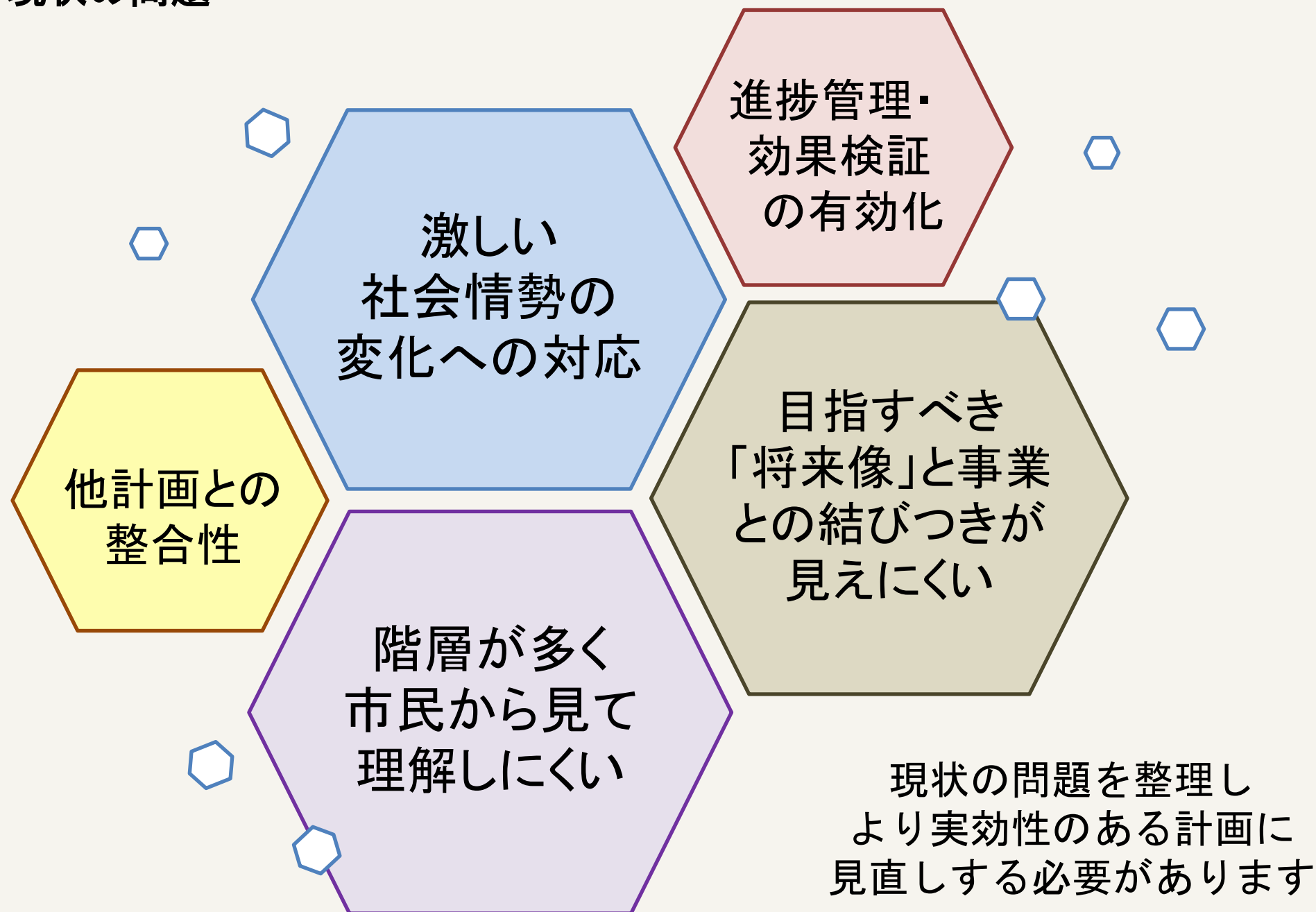
一方で、デジタルトランスフォーメーション(DX)の進展、脱炭素・循環型社会やダイバーシティ(多様性)の推進など、人々の価値観やライフスタイルも大きく変化してきました。

現代社会は、将来を予測することが難しく、変化のスピードがとても速い「VUCA(ブーカ)時代」と呼ばれる状況にあります。こうした時代を安心して暮らし続け、次の世代へ豊かな地域を引き継いでいくためには、これまで以上に柔軟で持続可能なまちづくりが求められています。

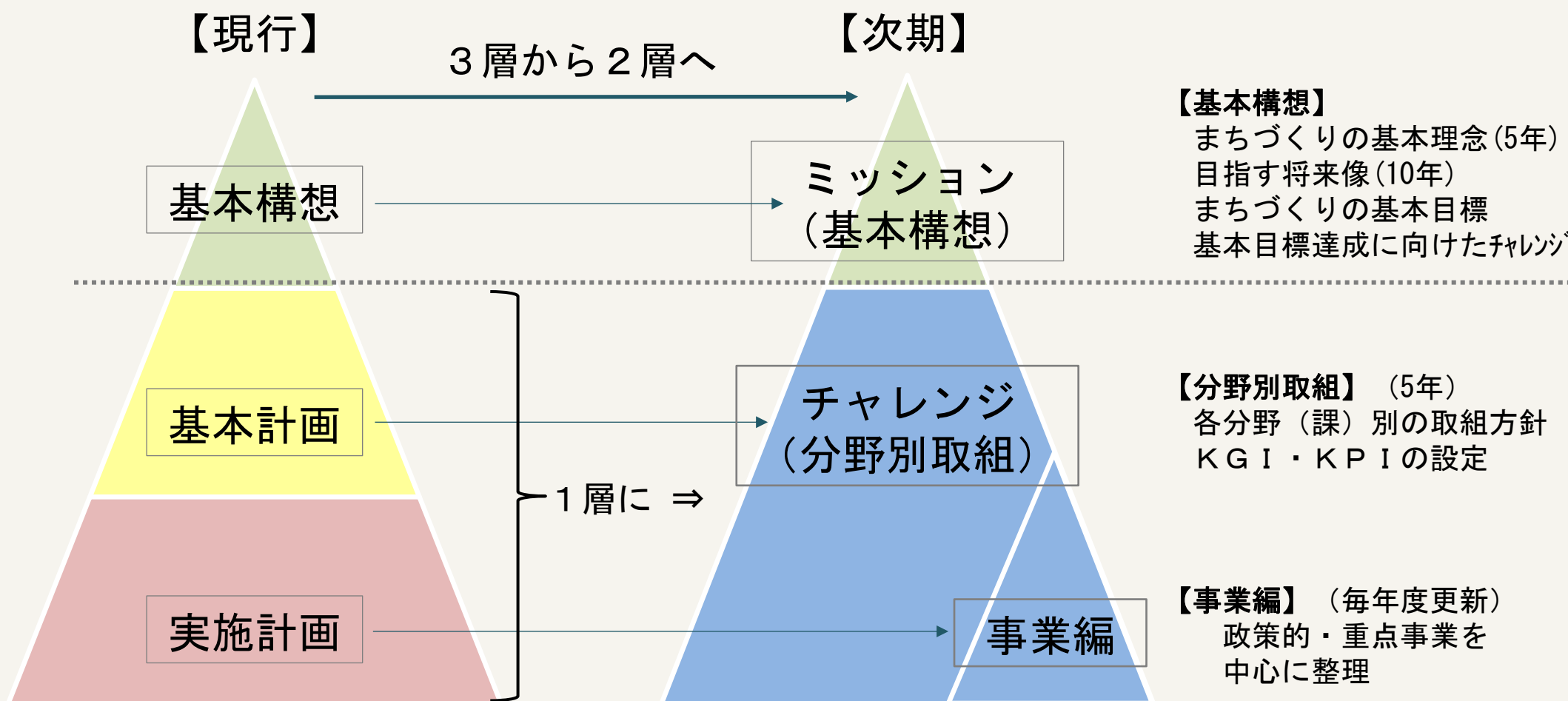
そこで本市では、困難な状況にあっても、少子高齢化や人口減少など社会の変化や新しい価値観を受け入れつつ、暮らしやすさ、豊かさ、幸せを感じられるまちを目指すため、地域の様々な皆様と課題を共有し、変化の時代を前向きに一緒に乗り越えていくための共通の指針として、次期総合計画を策定します。



現状の問題



計画の構成の見直し（案）



- 将来像や目標と現場の取組とのつながりが明確化され、整合性の確保が容易になる。
- 分野別取組や重点的な取組にひもづいた事業編とすることで、現場での事業の推進につながる。
- シンプルな構成にすることで、市民に分かりやすくかつ社会情勢の変化により柔軟に対応できる。

計画期間の見直し（案）

【現行】 平成29年度～令和 8 年度			【次期】 令和 9 年度～令和13年度			
1層	将来像	10年	1層	将来像		10年
	基本構想	10年		ミッション	基本理念	5 年
					まちづくりの 基本目標	
				基本目標達成に 向けたチャレンジ		
2層	基本計画	【前期・後期】 各 5 年	2層	チャレンジ	分野別取組	5 年
3層	実施計画	3 年 (毎年度更新)			事業編	毎年度

成果を短期的に評価することで、社会や経済の変化に柔軟に対応し迅速に軌道修正を行うとともに市民ニーズを的確に反映させた実効性の高い計画とする。

計画の見直しにより期待される効果

【期間の見直し】

(10年→5年)

- 社会情勢の激しい変化、ニーズや価値観の多様化に対応できる

【構成の見直し】

(3層→2層)

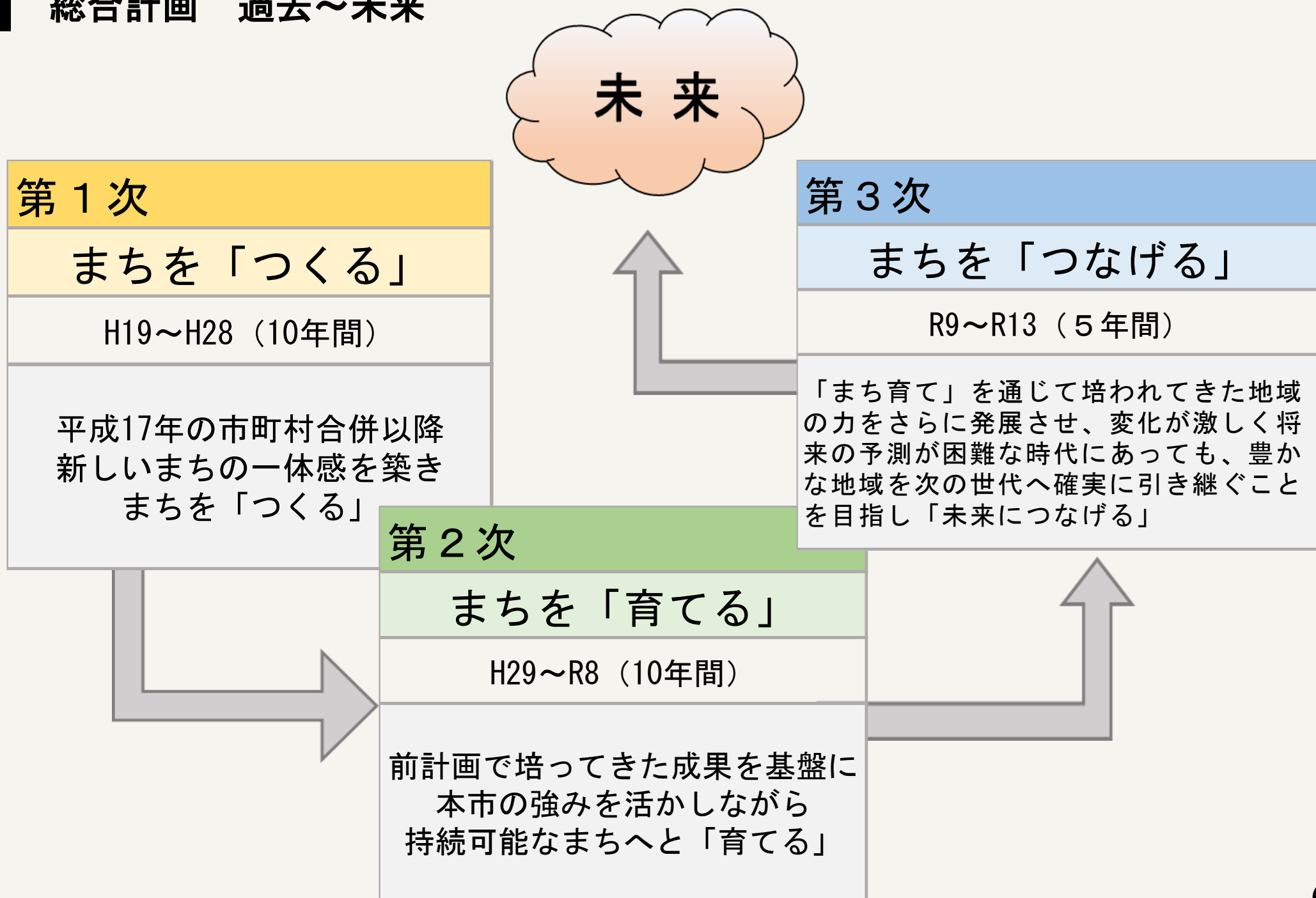
- 階層が簡素で分かりやすい
- 市民にわかりやすく職員が取り組みやすい
- 事業と将来像の結びつきが明確に
- 進捗管理や効果測定がしやすい

環境変化への
対応力

目指す姿の
明確化

変化に対応できる
共有性と実行力の
高い計画に

総合計画 過去～未来



将来像（案）

「住んで、よかった 生まれて、よかった」～未来へつなぐ 幸せのまち～

一人ひとりが豊かさや安心感をもって暮らせるまち
現在の生活の快適さや充実だけでなく 将来このまちで暮らす次の世代にとっても
持続可能で魅力ある環境を 守りつないでいく地域を目指します

基本理念（案）

“市民がそれぞれの幸せを感じられる”

みんなの幸せに
寄り添うまちを
未来へつなげます

日常生活の利便性の確保、生活環境
医療体制の整備、雇用・にぎわいの
創出に加え、人や地域の支え合いの
なかで安心して暮らせる環境を育み、
多様性が尊重され、誰もが健康で自
分らしく活躍できるまちを未来へつ
なげます。

“次世代を育みふるさとを引き継ぐ”

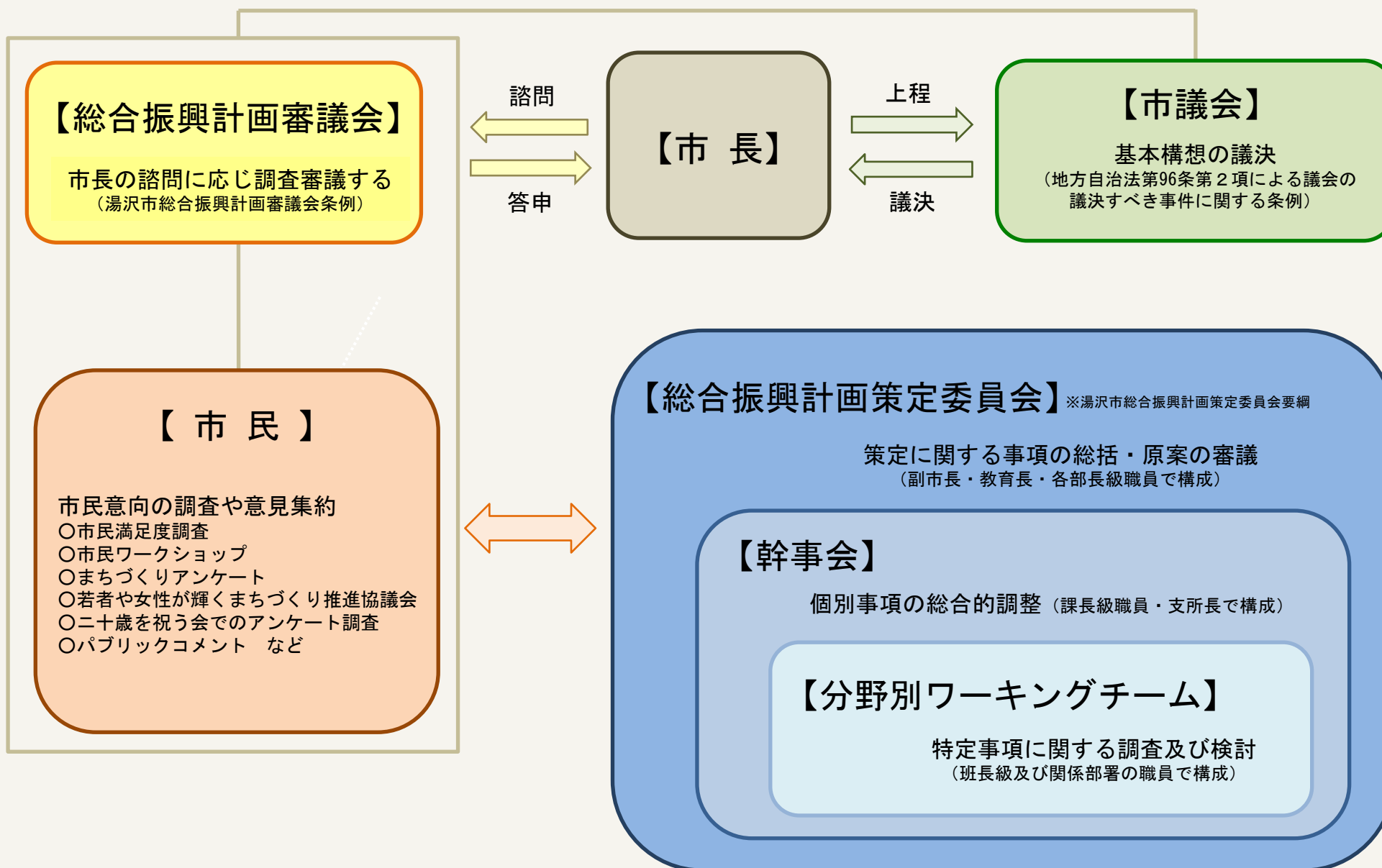
未来を創る若者を
応援するまちを
未来へつなげます

若者の定住支援や、出会い・結婚・
子育ての支援、子どもたちの学びを
支える教育環境の充実に取り組み、
魅力あるふるさと湯沢をつくること
で、大切な家族とずっと住み続けたい
と思えるまちを未来へつなげます。

“湯沢の魅力を磨き守り伝える”

安心して住み続けられる
魅力あるまちを
未来へつなげます

安全で快適に暮らせる生活環境の整備
と湯沢ならではの資源や魅力を磨き、
新たな価値の向上や外部との交流から
生まれる「人」の力を地域の活力に変え、
訪れる人にも暮らす人にも愛されるまち
を未来へつなげます。



策定スケジュール（案）

